

研究課題番号	1MF-2203
研究領域名	統合領域
研究課題名	SDGs実現に向けたフォローアップ・レビューのガバナンスに関する比較研究
研究代表者名（所属機関名）	天沼伸恵（公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES））
研究実施期間	2022年度～2024年度
研究キーワード	SDGs、フォローアップ・レビュー、ガバナンス、ポストSDGs、変革

研究概要、研究成果等

背景

持続可能な開発目標（SDGs）を含む2030アジェンダは世界を「変革する」ための目標として2015年に国連で採択されました。目標を達成するためには、各国が自国のSDGsの進捗を評価し、取り組みを改善する（FUR：フォローアップ・レビューする）仕組みやプロセスが欠かせません。

各国政府はFURを進めていますが、SDGsの進捗は遅いのが現状です。そこで、「現在、多くの国で行われているFURは、現行の取り組みを少しずつ改善しているだけで、SDGsが目指している変革につながっていないのではないか」という疑問が生じました。

研究の目的：変革をもたらすFURとは？

この問題意識から、私たちは3年間にわたる研究プロジェクトを立ち上げ、「どのようなFURをすれば、変革につながるのか？」という問いに答えようとしてきました。

研究の内容

研究では、持続可能な社会への移行や変革に関するこれまでの研究からヒントを集めました。また、研究チームは2つのグループに分かれ、グループ（サブテーマ）1では、SDGsの達成度が比較的高いとされるフィンランド、デンマーク、ドイツ、インドネシアなどにおいて、国レベルのFURに携わっている関係者へのインタビューを行いました。グループ（サブテーマ）2では、先進的な地方自治体において地方レベルのFURに携わっている関係者へのインタビューを行いました。



研究の成果

2つのグループの研究成果をまとめて、変革につながる効果的なFURの仕組みとプロセスのための概念的な枠組みを提案しました。

また、10個の具体的なステップ（ビルディングブロック）から成るFURの方法論を開発しました。さらに、この研究成果に基づいて、私たちは日本政府と国際社会に対して、SDGsのFURを変革的なものにするための具体的な提言を行いました。

環境政策等への貢献

- 国内外の自治体（インドネシアの西ジャワ州、フィリピンのサンタローザ市、日本の佐渡市）が、SDGsの取り組み状況や進捗をまとめた報告書（自発的地域レビュー）を作る際に、この研究に基づく知見を活用して、専門的なアドバイスをを行いました。
- この研究の成果をもとに、日本のFURのプロセスと内容について様々な提案をし、日本が2025年に発表した自発的国家レビュー報告書の一部を執筆しました。